

第2章 将来都市像

第1章の基本方向に沿って、本構想の目標年次である令和12（2030）年度において、本市が目指すべき将来都市像は以下のとおりとします。

《案1》

安心と 豊かな暮らしを育む 心つながるまち もばら

全ての市民が、心の安らぐ生活を送ることができ、また、経済的な側面のみではなく、精神的な側面も含めて豊かな暮らしを営むことができる、心の温まるようなまちを目指します。一人ひとりの市民や各種団体、企業、そして行政といった、まちに関係する全ての人々がつながり、同じ目標に向かって力を合わせることで、まちづくりの推進力を得ていくというビジョンが込められています。

《案5》

未来へつながる「交流拠点都市」もばら

「未来へつながる」という言葉には、いくつもの目指すまちのイメージが込められています。将来にわたり持続していくまち、圏央道を中心とした交通網により、首都圏の主要都市や羽田、成田両空港とつながる活気のあるまち、市民、企業、行政をはじめとしたいくつもの主体がつながり協力しあいながら創り上げるまち。

そして、まち全体として、人や物が集い行き交う交流拠点となることを目指します。

《案5+1》

心つながる・未来へつながる 交流拠点都市・もばら

全ての市民が互いに心つながり、安全安心な生活を送ることができるまちを目指します。また、羽田・成田両空港と繋がる地理的優位性を活かし、産業競争力の強化や地域活性化に努め、にぎわいのあるまちを目指します。

将来像の実現にあたっては、市民・企業・行政といった茂原市内の主体のみならず、市と繋がりのある市外の主体が、交わりながら共に「未来の茂原」を切り拓いていく、協働のまちづくりを進めます。